

図書館だより

★7月9日（放課後・図書館） 雑誌・付録プレゼント 申し込み日です。ぜひ、参加してください

6月の図書館利用状況	開館数 22日	利用者総数 338人		貸出者数 173人	貸出総冊数 307冊		リクエスト数 12件
		昼休み	176人		1年	63冊	
		放課後	150人		2年	82冊	
		見学 他	12人		3年	85冊	
					職員	77冊	

*昨年6月より 貸出数が37冊 増えました。

★7月9日より 夏の特別貸出 はじめます！

★一人 10冊まで ★返却日：9月1日（2学期 始業式）

最大で55日間
借れます。


自習
でき
ます。

夏休み中の図書館開館日 ★7月21日(水)～8月3日(火)の土日祝を除く8日間
【開館時間 9:00～17:00】 ★8月19日(木)～30日(月)の土日祝を除く8日間

★★★★★新着図書案内 NO.3★★★★★


<p>『琥珀の夏』 辻村深月／著 文藝春秋 かつてカルト集団として批判された団体の敷地から子どもの白骨が発見された。弁護士の法子は、遺体は自分の知る少女ではないかと推理する。記憶の扉が開き、罪があふれます。</p> 	<p>『あの夏の正解』 早見和真／著 新潮社 2020年、愛媛県の済美と石川県の星稜、強豪二校に密着した元高校球児の作家は、彼らに向き合い、「甲子園のない夏」の意味を問い続けた。パンデミックに翻弄される、挑戦することさえ許されなかったすべての人に捧げる「あの夏」の物語。</p> 	<p>『君と漕ぐ』 武田綾乃／著 新潮社 高校1年生の舞奈は、地元の川でカヌーを操る美少女、恵梨香に出会う。たちまち興味を持った舞奈は、彼女を誘い、ながとろ高校カヌー部に入部。水しぶき眩しい青春部活小説。</p> 
<p>『革命前夜』 須賀しのぶ／著 文藝春秋 バブル期の日本を離れ、東ドイツに音楽留学したピアニストの眞山。自分の音を求めてあぐら眞山は、2人の天才に出会う。のドイツを舞台に青年音楽家の成長を描く歴史エンターテインメント。</p> 	<p>『余命3000文字』 村崎羯諦／著 小学館 「大変申し上げにくいのですが、あなたの余命はあと3000文字きっかりです」ある日、医者から文字数で余命を宣告された男に待ち受ける数奇な運命とは一？泣き、笑い、どんでん返し。二十六編を収録！</p> 	<p>『肉体のジェンダーを笑うな』 山崎ナオコ／著 集英社 性別は、超えられる。もし夫の胸から「母乳」ならぬ「父乳」が出たら？ロボット技術で妻が怪力になったら？驚くべき想像力で、性差が減った未来をユーモラスに描く小説集。</p> 
<p>『きのうのオレンジ』 藤岡陽子／著 集英社 三十三歳の遼賀が受けた胃がん宣告。弟から荷物が届く。入っていたのは、弟と山で遭難した時に履いていたオレンジ色の登山靴。あの日のおれは、生きるために吹雪の中を進んでいた。心揺さぶられる感動長編。</p> 	<p>『代理母、はじめました』 垣谷 美雨／著 中央公論新社 独身のまま子供が欲しい、貧困と虐待から脱するため、少女ユキが始めたのは“代理母ビジネス”。女たちの自由を求めて立ち上がる。「子を抱きたい」女たちの出産革命小説。</p> 	<p>『臨床の砦』 小川 草介／著 数島寛治は、コロナ診療の最前線に立つ信濃山病院の内科医である。世間では「医療崩壊」寸前と言われていたが、現場の印象は「医療壊滅」だ。一般患者の診療にも支障を来すなか、病院は異様な雰囲気にも包まれていた。</p> 

『朝日堂オーダーメイド製本工房』
相原 野/著 KADOKAWA



誰にも忘れられない一冊がある。朝日堂では、オーダーメイドの本を製作する。世界に一つだけの本。そこには依頼人の忘れられない思い出がまつまっている。心にしみる物語。

『アウシュヴィッツで君を想う』
デヴィッド・ライト/著 早川書房




オランダ人医師であるエディは、通過収容所で知り合って結婚した妻フリーデルとともに、アウシュビッツ強制収容所に送られた。妻と離ればなれになってしまった彼は看守に依えながら妻と会う機会を模索しようとしますが…。生存者の記録。

『マグメル深海水族館』新潮社コミック
相下聖海/著




生命の大切さと多様な生き方が学べる、深海生物と人々の物語。主人公の航太郎は、深海生物が大好きな青年。いつか深海生物に飼育員になりたいという夢に向かって、マグメル深海水族館の清掃員のアルバイトをしている。そこで人々と出会い成長していく。

『宇宙マグロのすしを食べる』
魔法の水「好適環境水」誕生物語
山本俊政/著 旬報社




海水でもない 淡水でもない 第3の水「好適環境水」を開発。海水を使わずに海水魚の飼育を可能にし、世界に驚きを与える。食料危機を解決し、めざすは宇宙養殖！

『捨てられる食べものたち；食品ロス問題がわかる本』
井出留美/著 旬報社




東京都民1年分の食料を捨てる国。日本の食品ロスは年間612万トン。毎日、1人がおにぎり1個分を捨てています。どうする？食品ロス 大國ニッポン！

『時が止まった部屋』小島美羽・作
遺品整理人がミニチュアで伝える孤独死のはなし




「孤独死」「ごみ屋敷」誰にでも起こりうる現実をミニチュアで伝えたい。故人が残した部屋を清掃という形で身につける遺品整理人が、ミニチュアに込めた深い想いとは、死と向きあってきたからこそ伝えたい思い

『クジラのおなかからプラスチック』
保坂 直紀/著 旬報社




海のプラスチック汚染。このままでは2050年に海の魚の重量を上回るともいわれるプラスチックごみ。いま、世界がもっとも注目する環境問題がよくわかる！

『この星を救うために 小学館 知っておくべき100のこと』
竹内 薫/監修



地球は 危険な状態。温暖化、生命の絶滅…この星はこれからどうなってしまうのか？ わかりやすいイラストで基礎知識からトリビアまで環境問題に関する100のテーマを大図解！！

『世界を変えた 小学館 知っておくべき100人の発見』
竹内 薫/監修




人類を進化させた素晴らしい科学者の力！そんな世界を変えた、日本人を含む偉大な100人の、驚くべき発見と発明。アインシュタイン、ニュートン、コッホなど有名な科学者とともに日本人の科学者も紹介。

『TIMELINE: 地球の歴史をめぐる旅へ！』
大ヒットした歴史絵本137億年前のビッグバンから、現在までの地球の歴史が、タイムライン（一本の帯）ですっきりわかる、絵で見る世界の歴史！




『恐竜大図鑑』
アメリカ自然史博物館



第一線で活躍する古生物学者が、行動、身体能力、巣づくりから繁殖の仕方まで、恐竜の科学をくわしく解説。恐竜の知られざる一面に迫るビジュアルブック..

『クイズでわかる「世界まるごと大百科」』
世界文化社




あなたの脳を高めるための「クイズ形式の大百科」50を超えるテーマの中から興味のあるものを見ていこう！発売1年で世界75万部以上売れた大ベストセラー！これがいま世界中で読まれている図鑑。


『ときめくクラゲ図鑑』



『ときめく縄文図鑑』



『ときめく御仏図鑑』



『ときめくヤマボリ図鑑』



『ときめく妖怪図鑑』




『ぼくモグラキツネ馬』
チャーリー・マッケジー著 川村元氣・訳



八歳の子とちから、八十歳の大人まで、だれの心にも入り込み、いつても力をくれる、永遠の人生寓話。

BANKSY バンクシー 画集



英国を拠点とするストリートアーティストバンクシーの行動と作品のメッセージを紹介する。最新のコレクション。

ブリタリカ国際年鑑 2021



2021 激動の2020年の世界の出来事や注目された人物を、政治経済から、科学、芸術、スポーツまで幅広く収録。

『スマホ脳』 アンデシュ・ハンセン著 新潮社

『身近な雑草たちの奇跡』 森 昭彦/著 SBクリエイティブ

『身近の鳥の生きざま事典』 一日一種/著 SBクリエイティブ

『業界と職種がわかる本 2023年版』 成美堂出版

『一度読んだら絶対に忘れない英文法の教科書』 牧野智一/著

『東大ノートの作り方』 QuizKnock 監修 学研プラス

『まんがでわかる7つの習慣』 フランクリン・コギー・ジャパン 監修

読んで世界を広げる、書いて世界をつくる 読書感想文募集!

ぜひ この夏、すてきな本に出会い、

自分の心に残った感動を読書感想文に表現してみよう。

本を読んで、何を感じ、何を考え、心がどう動いたか? それを自分の言葉で生き生きと表現すれば、最高の読書感想文になります。ぜひ、チャレンジしてください!

提出された感想文の中から優秀作品(学校代表)を選んで、第67回青少年読書感想文全国コンクール(阪神高校支部)に応募します。すばらしい作品を期待しています。

阪神高校支部の応募要項

*2000字原稿用紙・「HOW TO 読書感想文」は配布します。

- 1 対象図書：自由図書(教科書、副読本、雑誌、パンフレット類、日本語以外の図書は対象外)
：課題図書(下記の図書)
- 2 字数 2000字以内(題名・氏名は字数に入れない)
- 3 校内提出 9月1日(水)(2学期始業式の日)

→→ 学校代表を応募します。



第67回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書<高等学校の部>

	書名	著者名	出版社	本体価格
1	水を縫う	寺地はるな	集英社	1760円
2	兄の名は、ジェシカ	ジョン・ポイン	あすなろ書房	1650円
3	科学者になりたい君へ	佐藤勝彦	河出書房新社	1540円



水を縫う

寺地はるな 著

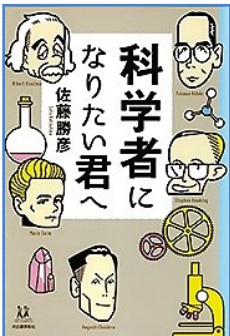
「男なのに」刺繍が好きな高1の弟。「女なのに」かわいいものが苦手な姉。「親らしく」なれない父と母…。普通とされていること、常識とされていることをもう一度問い直す、すべての人に贈る希望の物語。



兄の名は、ジェシカ

ジョン・ポイン 著

14歳のサムのヒーローは兄だった。その兄が家族に向かって自分は「トランスジェンダー」と告白した。関係の母親はうろたえてしまい……。性の問題が、誠実に、ときにはコミカルに描かれている爽やかな青春小説。



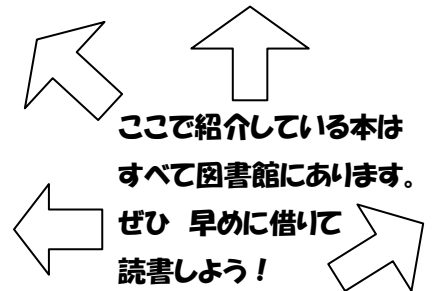
科学者になりたい君へ

佐藤勝彦 著

「どうすれば科学者になれるのか?」研究生活、論文、ノーベル賞、科学の面白さ……日本の科学研究を牽引した著者が実例を交えて案内する。科学を見る目がガラッと変わる、全ての人に必読の書!



<高校生に読んでほしい50冊> 配布します。



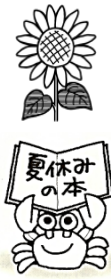
ここで紹介している本は
すべて図書館にあります。
ぜひ 早めに借りて
読書しよう!



この夏心に残る読書を!

すてきな本と出会う!

読書の夏!



ゼロから0へ



まはら三桃/著
ポプラ社
1760円

主人公の松岡聡一と新幹線の開発に携わった人たちの物語。軍用機を設計した技術者と旧国鉄の技術者の確執や満州から引き揚げてきた越川寧子との出会いを織り交ぜて、多くの人たちが安全に移動できる高速鉄道の車両と設備の構築を目指す。ついに、世界に誇る新幹線が完成する。

書名の「零から0へ」は、軍用機の「零戦」と「0系新幹線」に由来する。平和を運ぶ乗り物を作りたいとする技術者たちの想いが貫かれている。

かけはし：慈しみの人・浅川巧



中川なをみ・作
新日本出版社
1760円

浅川巧という人を知っているだろうか。日本が朝鮮を併合した時代に、朝鮮の人々が日常生活に使う、白磁の器、木工品などの工芸品に魅せられ、産げられし朝鮮文化を高く評価した日本人である。

クリスチャンであり、当時、一流の林業技術者として評価されていた彼が、韓国人への差別や偏見と闘いながら、日本で民藝運動を起こした柳宗悦らと共に朝鮮民族美術館設立に尽力し、日韓の架け橋となっていく姿が描かれる。

やぐらたいこ 櫓太鼓がきこえる



鈴木ふみ/著
集英社
1760円

櫓太鼓は、「呼出」が担当する。高校を中退して呼出見習いとして入門した篤の目を通して、相撲部屋のしきたりや幕下力士の生き方など相撲の世界に生きる人々が描かれる。

同じ年の直之は、入門が2年早い兄弟子で、声もよくフアンを獲得している。一方、篤は四股名を間違えたり、先輩の呼出である光太郎から嫌がらせを受けるなど日々苦勞が絶えない。親方や部屋の力士に支えられながら呼出として成長していく。

ハナコの愛したふたつの国



シリア・カドム・作
もりうちすみこ・作
小学館
1760円

ハナコはロサンゼルスでレストランを営む両親の元で生まれ育った。しかし、戦争が始まると日系人は強制収容所に入れられ、終戦後にアメリカでの再起を断念した両親は、父の故郷の広島に帰る道をえらぶ。

広島では年老いた祖父母がハナコたちを温かく迎えてくれたが、原爆が落とされ、敗戦国となった日本での暮らしは過酷なものだった。そんな中、ハナコの両親は子どもたちの幸せを願って、ある決断をすることになる。

シリアで猫を救う



アラール・アルジャリール/著
ダイ・ダーク・著
大塚敏子・訳
講談社
1870円

21世紀最大の内戦と言われ、生き地獄と形容されたシリア内戦。爆撃にさらされたアレppo市街で、負傷者の救護と並行して、猫や動物等を救い続けた「アレppoのキャットマン」ことアラール。彼の活動を通して内戦の現実を伝えるノンフィクション。

彼の活動は、シリアの惨状に国外の人々が目を向けるきっかけとなり、さまざまな支援を得て、困窮する人と動物を助ける「サンクチュアリ」の創設につながる。

電柱鳥類学：スズメはどこに止まっている？



三上 修/著
岩波書店
1430円

電柱鳥類学という学問は、著者が命名したもので実際にあるわけではない。「電線に鳥が止まっている」という、どこでも見られる光景を前に、「学問」と言うのは、実は「不思議な発見に満ちている」ということなのである。

送電のための電柱本来の役割、構造から、それを利用してよとするスズメやカラスなど市街地の鳥たちの実に賢い姿までが語られる。停電を防ぎたい電力会社と鳥たちとの攻防、なぜか微笑ましくもある。

チーム・ブルーの挑戦：命と向き合う「やまと診療所」の物語



中島 隆/著
大月書店
1760円

「やまと診療所」は2013年に開業した在宅医療専門のクリニックである。「自宅で自分らしく死ぬ、そういう世の中をつくる」というビジョンを持つ安井医師の元に集結した医師、診療アシスタント、看護師、リハビリ士、事務スタッフたちが、チームとなって、患者とその家族に寄り添い支える。

看取りの現場で、患者に向き合う医療従事者たちがどんな経験をし、何を思い考えたかが痛烈に伝わる。新しい医療の姿を示している。

「役に立たない」研究の未来



初田哲男/著
柏書房
1650円

現在の日本では研究に必要な予算が削減され、科学研究に対しても「役立つ・立たない」という価値観が向けられるようになった。本書は前線で活躍する3名の研究者が「役に立たない」科学が役に立つ9テーマで議論を交わしている。

科学研究に対する役に立つという認識について、論文の引用回数や、長い歴史の中でどう扱われてきたかなどが語られている。また、研究を社会の在り方についても考えを深められる。